

北のとびら

vol. 105

平成27年6月



特集

帯広コンテンポラリーアート2015
マイナスアート展

変容する時代に問いかける
十勝で力強く息づく
現代アートの挑戦

この人に注目

鎌田 順也

アートのチカラを考える

韓国光州

演劇交流レポート

街歩きアート

自然の中に美を求める、
アーティストたちの鑿の痕をめぐる
[音威子府村]

フォト・エッセイ

前田 司郎

表紙作家の紹介

経塚 真代





●特集／帯広コンテンポラリーアート2015
マイナスアート展

変容する時代に問いかける 十勝で力強く息づく 現代アートの挑戦

豊かな畑がどこまでも広がる十勝。その中核都市・帯広は、北海道において現代アートの際立った活動を行っている地域でもあります。十勝・帯広の現代アート作家による組織「帯広コンテンポラリーアート」は、今年は8月1日からの30日間、約70年の歴史に幕を下ろした「ホテルみのや」に作品を展示する「マイナスアート展」を開催。平成23年度の「真正闊の100日」、平成25年度の「防風林アートプロジェクト」に続く、十勝ならではの現代アートの可能性を探る試みとなります。

帯広・現代アートの潮流

十勝・帯広は、美術展・アートプロジェクトなどが盛んに行われている地域です。現代アートの分野では昭和60年頃に環境アートの活動が活発化し、以降、野外でのインスタレーション展示を中心とした企画展がさまざまなに繰り広げられてきました。

大きな転機となったのが、平成14年の夏、帯広市開拓120年・帯広商工会議所創立80周年を記念して開かれた、とち国際現代アート展「デメーテル」です。帯広競馬場を会場に、2カ月間にわたって行われたこのアート展は、その場のインスピレーションで作品を制作する滞在型創作活動をメインとして展開。オノ・ヨーコをはじめ国内外から著名なアーティストが参加し、地元・帯広のアーティストたちも大いに刺激を受けました。

関連事業も含め約80点もの現代アート作品が集まった「デメーテル」は、「現代アートはアーティスト以外の人間にとつても人生を豊かにする価値あるもの」という意識を、地域に根付かせるきっかけとなりました。その後、多様な創作活動が行われる中で「十勝の地域性を活かした独自の活動を」



Contemporary Art
2015 Minami
マイナスアート展

との思いが高まり、「帯広コンテンポラリーアート」の誕生へと繋がったのです。

地域ならではの会場で

帯広コンテンポラリーアートとしての最初の活動となったのが、「帯広コンテンポラリーアート2011—真正閣の100日—」です。会場の真正閣は、明治44年、時の皇太子の行啓の御在所として建てられた、帯広の歴史的建造物。その築100年を記念し、純和風の荘厳な空間で、100日間にわたって美術展が開催されました。舞踊や演奏なども行われ、総勢50名以上のアーティストが参加。企画・運営・実施、全てが参加作家によって行われるスタイルもこの時からのものです。

続く「防風林アートプロジェクト2013-14」では、帯広市街の広大な農地がメイン会場に。2月1日からの2週間という、最も寒さが厳しく、美しさの冴え渡る時期に、雪原となった農地と防風林とが創り出す景観の中で、47名が制作・展示を行いました。雪に埋もれてしまう様も自然とのコラボレーションと位置

付け、この季節の十勝ならではのアートの創造に挑戦しました。

マイナスから再生へ

十勝の中核都市として勢いを持つ帯広市も、中心街の空洞化という地方都市に共通した問題を抱えています。この夏に開催される「マイナスアート展」は、長く戦後の発展を見守ってきた旧ホテルが舞台。「現代社会が経済成長の中で見過ごしたり見失ったりしてきたものを、現代アートという自由な表現で問い直す機会となる」と、帯広コンテンポラリーアート実行委員会の代表・梅田正則さんは言います。

旧ホテル1階は、現在は帯広で文化交流活動に取り組むグループ「十勝サロン」の拠点の一つとして利用されています。展示会場は2階から屋上までの客室、廊下、階段、浴室、ポイラー室などの全ての空間。建物は来年以降、新たなスタイルでの経営が予定されており、ベッドマットやテレビなど、一部の設備はそのまま設置されています。「現状を損壊することなく、再生への期待とともに寄り添うような形での展示となる」と梅田

さん。彫刻や絵画、インスタレーションを中心に展開し、舞踊や音楽、トークなどのイベントも開催されます。

会期中は夏の観光シーズンでもあることから、近隣の帯広駅北多目的広場では七夕飾りをアーティストとともに制作する市民ワークショップを実施。「防風林アートプロジェクト」のワークショップで制作した飛行機のオブジェを、ツリー状にアレンジして飾り付けします。

帯広の現代アートの潮流は、変わりゆく時代に何を提示するのか。3回目となる帯広コンテンポラリーアートの試み「マイナスアート展」に期待が寄せられています。

帯広コンテンポラリーアート2015 マイナスアート展

(北海道文化財団まちの文化創造事業)

日程／平成27年8月1日(土)～8月30日(日)
会場

○十勝サロンANNEX(旧ホテルみのや)
帯広市西2条南10丁目20

○帯広駅北多目的広場
問い合わせ／帯広コンテンポラリーアート
☎090-8908-3473(鈴木)

○参加アーティスト
朝地信介／池田緑／上ノ大作／潮田友子／梅田マサノリ／伽井丹彌／柿崎照／澁谷俊彦／下沢敏也／霜田誠一／杉田光江／鈴木隆／野又圭司／半谷学／堀川紀夫／吉野隆幸 ほか

●特集

帯広コンテンポラリーアート2015 マイナスアート展



櫻井 亮 「轟きほうだい」
(防風林アートプロジェクト2013-14)



半谷 学 「風と水と時の遊び」
(帯広コンテンポラリーアート2011—真正閣の100日—)



初日、客席も緊張感がありました



感激した光州空港での横断幕による歓迎

韓国光州公演を終えて

弦巻楽団主宰
作・演出家
弦巻啓太

げで、笑いの絶えない公演となりました。客席で本番を見ながら、言葉の壁なんて無い、そう強く感じました。

国際交流とはなにか。正直よく分かりません。何をもち「交流した」と言うのか。行き違いや、すれ違いがあった時、どうすべきなのか。

現地でアクシデントが発生する度に、我々は愚直に、自分たちの思いや信念を光州のスタッフにつけました。気分を害されることは十分に考えられました。ですが、それを恐れたり、避けることが「国際交

5月16日と17日、私たち弦巻楽団は北海道文化財団と光州演劇協会の文化交流事業の一環として、韓国光州で代表作「死にたいヤツら」を上演してきました。光州では「光州平和演劇祭」が行われており、我々の演目はその一つ。初日から大歓迎を受け、全くゆかりの無い土地でありながら若者を中心に、光州の演劇界を支える多くの方々が観劇してくれました。

全ての台詞を字幕で見せることに不安もありましたが、しかし通訳のヒョンさんの見事な字幕のおかげで、笑いの絶えない公演となりました。客席で本番を見ながら、言葉の壁なんて無い、そう強く感じました。

流」だとは（僕には）言い切れませんでした。コミュニケーションのあり方として、演劇を信頼している自分にとって。

それは間違ってたかと、公演が無事終わった今では思います（ヒヤビヤしたけれど）。

幸運なことに、光州の皆さんはとも理解ある方たちで、我々の思いを受け止め、創作を120%尊重し尽力してくれました。

言葉なんて、本当に壁じゃないのだと思います。行き違いが起こるのは言葉の問題じゃありませんでした。言葉が通じていたら、もってこじれていたかもしれない（笑）。それは文化であり、歴史の違いでした。

演劇の醍醐味は他者と出会うことです。僕たちは今までに無いレベルで他者と出会いました。お互いの文化を、その違いを強く感じました。それはとても尊い違いです。これからの活動の大きな糧となる経験でした。社会における演劇の必要性にも改めて気付きました。

光州の皆さん、送り出してくれた日本の皆さん、本当にありがとうございました。光州の劇団が次に札幌にいらした時は、手厚く、親身にお返しをしようと思います。交流は、続いていくのですから。まだ始まったばかりです。



千秋楽終演後、皆さんで記念写真



翌日行われる平和式典の会場を見学



初日を終えて打ち上げへ。地元の若い演劇人がよく利用する唐揚げ屋さんで

鎌田 順也

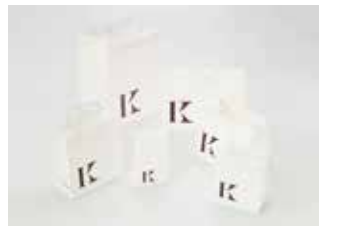
Junya Kamada

この人に注目

【アートディレクター・グラフィックデザイナー】



K
KINOTOYA



「洋菓子きのとや」の全てのビジュアルデザインを担当。紙袋は白紙に白を印刷してシンプルな上質さを表現



松尾ジギスカンのコンセプトブックとロゴマーク。本のタイトルも担当している



2014年、グラフィックデザイナーの全国組織であるJAGDAの新人賞を受賞。そして2015年、世界三大広告賞の一つであるロンドンD&AD Awardsで北海道初のイエローペンシル（金賞）を受賞。コンセプトを的確に構築し、消費者の想像力に働きかける意外性を持ったビジュアルを、洗練された美的センスで生み出して高く評価されている人物、それが鎌田順也さんです。

中心的な仕事はブランディング。顧客の経営理念や事業コンセプト、商品ラインナップなどを整理し、それをロゴマークやパッケージといった、消費者に見えるビジュアルに繋げていきます。時には店舗ブランやユニフォーム選定といった分野にまで関わります。

「アートディレクターはコンセプトや行くべき道筋をつくるのが仕事。お医者さん同様、相手の話をよく聞き、必要であれば検査もし、症状に合わせて対策を考える。その方法としてアートを使うんです」と鎌田さんは言います。

「気付いてもらえないものは空気と同じ。良くも悪くも評判になるものを作る」のが信条。売上への責任を覚悟しつつも、顧客の先にいる、ビジュアルを見てくれる人のための制作に専心しています。

「地方の特産品を、世界に届くデザインにしていけたら嬉しい」と語る鎌田さん。北海道のビジュアルコミュニケーションを支えていく新しいパワーとして期待されています。

鎌田 順也 / Kamada Junya

アートディレクター／グラフィックデザイナー。1976年北海道生まれ。北海道東海大学（現・東海大学）卒業。北海道芸術デザイン専門学校卒業。KD主宰。主な受賞に、ONE SHOW DESIGN（米）金賞・銅賞、D&AD（英）金賞・銀賞、JAGDA新人賞2014、JAGDA賞2011、日本パッケージデザイン大賞 金賞（11年・15年）・銀賞・銅賞、日本タイポグラフィ年鑑 ベストワーク賞、中国国際ポスタービエンナーレ 銅賞など多数。東海大学、札幌大谷大学非常勤講師。



樹の縁で結ばれた地へ還る

高橋昭五郎 彫刻の館

村役場庁舎の隣にある旧青少年会館を利用し、室蘭市在住の彫刻家・高橋昭五郎の作品を約170点所蔵し、毎年約20点を展示しています。高橋氏と音威子府の地との出会いは、昭和58年に砂澤ビッキが主催していた「樹を語り作品展」に参加し、作品を現地制作したことが縁でした。ビッキとは昭和6年生まれで、高橋氏と同い年で、ビッキが室蘭を訪れたこともあったといいます。

平成14年、高橋氏が作品を村に寄贈し「彫刻の館」として開館。毎月展示替えが行われるので、訪れるたび違う作品に出会うことができます。

また、展示スペースのホールは、イベントの開催や、冬期はクロスカントリースキーのワックスルームに変わるなど、アートと地域の暮らしが交差する自由な場となっています。会館だった頃の雰囲気が残された空間も含め、アートがまちの記憶とともにある意味を感じ取ってほしい、というのが高橋氏の願いです。



ビッキとも交流のあった
美術家・田村宏のコーナーも併設



ホールでの展示。
今も毎年、新しい作品が寄贈されている

●音威子府村字音威子府444-3
☎01656-5-3311 (音威子府村役場)
開館時間：9:00～17:00
休館日：冬期(11月1日～4月25日)
※開館期間中は無休
入館料：無料
www.vill.otoineppu.hokkaido.jp/shisetsu/
choukokunoyakata/

自分らしく、を創造する学び舎

北海道おといねっぶ 美術工芸高等学校

木を切る、削る、叩く。さまざまな音が教室にあふれます。道内で唯一の工芸科を主体とする村立の高等学校には、全国から生徒が集まり、寮生活をしながらものづくりを学んでいます。入学時に必要なのは、送られてきた図面を見ながら、苦勞して自分で作る工具箱。3年間使う工具入れであると同時に、工芸の基本的な技法が詰まっています。生徒は授業が進むとともにその意味を理解します。

この高校が木工芸を取り入れた教育を行うようになったのは、昭和53年のこと。これは砂澤ビッキが村にやってきた年でもあります。豊かな森林と豊富な木材に恵まれていた音威子府ですが、「真の意味で村の振興を図るには、若者たちに工芸技術を身に付けさせるだけでなく、芸術という精神的な支柱が必要」と考えた当時の校長が、ビッキを音威子府に招いたのだそうです。

昭和59年に、全道唯一の全日制的工芸科高校となり、平成15年には工芸と美術のコース制を創設。2年生から工芸か美術のコースを選べ、ものづくりの分野がより広がりました。美術工芸高校の教育について、小幡圭二校長は「国語や数学などの教科で分けるのではなく、ものづくりによって学ぶことへの興味関心や意欲が高まり、教科の枠を超えて学びが広がる」と言います。

前年度の卒業制作である、工芸コースの家具や小物、美術コースの絵画などはエントランスホールに展示されていて、誰でも見学が可能(要連絡)。2階の作品展示スペースも見ることができます。作品からは、ものづくりを通して生き生きと自分らしくあることを学んでいることが感じられます。



(上)
エントランスの
卒業制作展示
(中・下)
工芸科3年の授業風景。
卒業制作に向けて
図面を書き模型を作り、
材料を切り出す

●音威子府村字音威子府181-1
☎01656-5-3044
見学は随時受付(要連絡)
otoinneppu-ac-h.server-shared.com



街歩きアート

自然の中に美を求め、 アーティストたちの鑿の痕をめぐる 【音威子府村】

「北海道で一番小さな村」である音威子府村は、天塩川流域に位置する、森林資源が豊富な土地。樹木とともに生きた芸術家が最後にたどり着いたこの地は、アートと工芸の里となり、現在多くの若者たちの夢を育てています。

今もビッキの魂が宿る場所

エコミュージアムおさしまセンター

BIKKYアトリエ3モア



エントランスでは、札幌にあったバーの
ビッキによる店内装飾が再現されている



牛の部分の制作をビッキが担当した
「オトイネップタワー」

音威子府の市街地から天塩川に沿って北上したところに、**箴島**という地域があります。昭和53年、廃校になった箴島小学校に彫刻家・砂澤ビッキが移り住み、亡くなるまでの10年間、住居兼アトリエとしてここから多くの作品が生み出されました。平成15年、ビッキの作業場などを保存した形で記念美術館として開館。ちなみに「3モア」とは、モアという名の3カ所目のアトリエだったことによります。

学校の面影を残して改装した展示室には、風や樹、水といったテーマごとに、木彫を中心にドローイングや水彩画などが並びます。自然の声に耳を研ぎ澄まし、見えないものを形で表現できたのは、ビッキの生まれ持ったアイデンティティからかもしれません。同時に、知的な遊び心やエロティシズムも感じます。「文学者の澁澤龍彦と交流を持ち、詩を書くなど芸術への深い知識を蓄えていた人でした」と、常駐する地域おこし協力隊の川崎映さん。

イセエビやサケなど具象の木彫に刻まれた「ビッキ文様」は、伝統的なアイヌ文様を発展させたオリジナルで、ブロンズ製に見えるような顔料の使い方も独特です。また、音威子府駅前に「オトイネップタワー」を制作しました。「風雪という名の鑿」とビッキが表現したように、自然にさらされる中で作品が完成する、という考えから、強風で倒れ傷ついた状態そのまま展示されています。

夜行列車の音を聞きながら真夜中に制作していたというビッキのアトリエは「午前3時の部屋」と名付けられ、愛用の鑿なども展示。地域の人たちに愛され、大きな影響を与えた芸術家・ビッキの熱い息づかいが、今も聞こえてきます。

●音威子府村字物満内55
☎01656-5-3980
開館時間：9:30～16:30
休館日：月曜(祝日の場合は翌日)、冬期(11月1日～4月25日)
観覧料：200円(音威子府村在住以外の方) 中学生以下無料
bikkyatelier3more.wix.com/atelier3more/



表紙作家の紹介



エイロネイア

経塚 真代 美術家

Masayo Keizuka

1978年 札幌市生まれ/在住
札幌大谷短期大学美術科油彩コース専攻科卒業
CAI現代芸術研究所11期生

愛犬と自分の中のどこか悲しい物をモチーフに創作

[個展]

- 2014年 「こんにちは さようなら」喫茶つばらつばら/札幌
- 2014年 「九月の旅人」六花亭福住店/札幌
- 2014年 「昨日の出来事」ギャラリー犬養/札幌
- 2013年 「ちいさくて見えない星」Cafe Esquisse/札幌
- 2012年 「I am kuu展」Gallery Newstar/札幌

[グループ展]

- 2015年 「つなごろう2015」札幌駅前通地下歩行空間/札幌
- 2015年 「new point vol.12」大同ギャラリー/札幌
- 2014年 「Outrigger」金森赤レンガ倉庫 BAYはこだて内 BAYギャラリー/函館
- 2014年 「cute展」北広島市芸術文化ホールギャラリー/北広島
- 2013年 「Sapporo Art Map」500m美術館/札幌
- 2013年 「quatre blanc」さいとうギャラリー/札幌
- 2012年 「deai」アルテピアッツァ美唄/美唄 Gallery Newstar/札幌

[受賞]

- 2015年 「JRタワーART BOX2015」(優秀賞)
- 2014年 「第89回 道展」(入選/佳作)
- 2013年 「第88回 道展」(入選)
- 2012年 「ニングル大賞」富良野(佳作)

[企画/販売展・その他]

- 2015年 「時間旅行」苫小牧市立樽前小学校/苫小牧
- 2015年 cheer企画展 浅草店/東京、本店/札幌
- 2015年 「雲のあつまるどころ」ギャラリー〇R/香川
- 2015年 「すみれの花の砂糖づけ」コトリ花店/東京 week end books/静岡
- 2014年 「Art Fair Sapporo 2014」CROSS HOTEL/札幌
- 2014年 「セブンストーリーズ」本郷新記念札幌彫刻美術館/札幌
- 2014年 「ユキイロ植物園」コトリ花店/東京
- 2014年 「星の風景」ミュージアムショップポレール 新装1周年記念 札幌芸術の森美術館/札幌
- 2013年 「art fair sapporo 2013」CROSS HOTEL/札幌

[常設販売]

vivre sa vie + miyyu/小樽



アシタノヒト



たくらみ顔



フォト・エッセイ ⑨
文/写真 前田 司郎 Shiro Maeda

熊を訪問

僕は大学の授業でアイヌ文化を習った。真面目な生徒ではなかったから身にはならなかったが、非常に面白い授業だった。そこから北海道に憧れを抱くようになり、大人になって時間が出来た時、知床に一人旅に出た。震災よりも前のことだからもう5年か6年前だ。世界遺産にもなった自然を見て、ニブタニヤ、アイヌの資料館など訪ねたかったが、北海道の広さを甘く見ていて、僕がバカだった。3日か4日の滞在ではとても無理だっことに気付いたのは、旅立つ数日前で、その旅は知床の周辺を見てまわるだけにした。夏の暑い盛りだったが、空気を感じたかったので、歩き回った。道路を歩き、可能であれば森の中を移動した。森の向こうの湖を見たかったが熊が出たとのことで、途中で諦めしか入れない。それでもせつかく来たのだからと、可能な場所まで歩くことにした。平日だったからか、僕その他には誰も居ない。木々の間、明るい静寂のな



前田 司郎 (まえだ しろう)
劇作家・演出家・俳優・小説家・劇団「五反田団」主宰

1977年東京生まれ。1997年、劇団「五反田団」を旗揚げ。2004年「家が遠い」で京都芸術センター舞台芸術賞を受賞。2005年『愛でもない青春でもない旅立たない』で小説家デビュー。2007年、小説『グレート生活アドベンチャー』が芥川賞候補となる。2008年、戯曲『生きてるものはいないのか』で岸田國士戯曲賞を受賞。2009年、小説『夏の水の半魚人』で三島由紀夫賞受賞。近年はテレビ・映画のシナリオや演出も手掛け、2015年、「徒歩7分」で向田邦子賞受賞。近者に『私たちは塩を減らそう』(キノブックス)、『口から入って尻から出るならば、口から出る言葉は』(晶文社)他多数。

○次号の当コーナーも前田司郎さんにご担当いただきます

かでもとても不安になった。ここは人の住むところじゃない。熊の住処に足を踏み入れている。ガサツと音がすると肝が縮んだ。そこに鹿の姿を見るとホッとすする。鹿が居るなら熊は居ないだろう、と変な理屈をこねながら歩く。理屈で言うなら熊よりも自動車の方が怖い、どちらがより人を殺しているか考えればわかる。でも、自動車は神にはならなかった。熊は神なのだ。そんな感覚が妙に腑に落ちた。東京の熊は神性を失って自動車になったのだ。

文化の宅配便事業

●木管五重奏団ウインドアンサンブル・ポログ
名寄市風連公演

日時：平成27年7月12日（日）13:30開演（13:00開場）
会場：ふうれん地域交流センター
（名寄市風連町本町63番地）
入場料：無料
問い合わせ：風っ子プロジェクト ☎01655-3-2077

●木管五重奏団ウインドアンサンブル・ポログ
雨竜公演

日時：平成27年9月18日（金）
※時間についてはお問い合わせください。
会場：雨竜町立雨竜小中学校（雨竜町字満寿28-26）
入場料：無料
問い合わせ：
雨竜町教育委員会
☎0125-77-2322



●Ezo'n 真狩公演

日時：平成27年7月14日（火）18:30開演（18:00開場）
会場：真狩村公民館（真狩村字光4番地）
入場料：無料
問い合わせ：真狩村教育委員会 ☎0136-45-3336

●Ezo'n 鹿部公演

日時：平成27年7月22日（水）18:00開演（17:30開場）
会場：鹿部中央公民館（鹿部町字宮浜311番地2）
入場料：無料
問い合わせ：
鹿部町教育委員会
☎01372-7-3124



●能登谷安紀子&友清祐子 新得公演

日時：平成27年8月5日（水）18:00開演（17:30開場）
会場：新得町公民館（新得町4条南4丁目）
入場料：無料
問い合わせ：新得町教育委員会 ☎0156-64-0532



舞台芸術情報提供事業

●北海道舞台芸術情報フェア2015

日時：平成27年7月2日（木）12:30受付開始
平成27年7月3日（金）9:30受付開始
会場：札幌市教育文化会館
（札幌市中央区北1条西13丁目）
内容：平成28年度に道内で上演可能な音楽、演劇、伝統芸術等の公演企画の情報提供等を行います。



問い合わせ：（公財）北海道文化財団
☎011-272-0501

北海道舞台熟事業

【北海道戯曲賞 作品募集】

次代を担う劇作家を発掘するとともに、優れた作品を道民の皆さんに提供し、演劇の楽しさを知っていただくことを目的に、全国に門戸を開き道内外の劇作家が競い合う、希望の大地の戯曲—北海道戯曲賞—の戯曲作品を募集します。



応募締切：平成27年9月25日（金）
応募方法：北海道舞台熟ホームページをご覧ください。
<http://hokkaido-butaijyuku.jp>
問い合わせ：
北海道舞台熟実行委員会（北海道文化財団内）
☎011-272-0501

◎北海道文化財団アトスペース企画展

岡理恵子「図案展」
会期：平成27年5月21日（木）～7月10日（金）9:00～17:00
休館日：土・日・祝日 ※都合により臨時休館する場合があります。
会場：北海道文化財団アトスペース
（札幌市中央区大通西5丁目11 大五ビル3F）
入場料：無料

